



■人との出会いから

小生がランドスケープの世界に出会ったのは、学生時代に“久保先生”という偉大な先達に巡り会ったことに始まります。先生には『場の理論』『造園心理学』等、オープンスペースの基本的考察の手法

- ・場創りには観察の眼を養うことが重要—雨降りの時・日照りの時等すべての自然条件の中で観察することが肝要。
- ・聴き取りの技術が大切—計画・設計を行う際には、オーナー・エンドユーザーの意向をいかに聴き取るかが大切で、その技術を修練しなければならない。

等々みっちり仕込まれ、生き方の心構えまで導いていただき今の原点となっています。又、授業を通してウィリアムズ先生、ガレット・エクボ先生達に新しいランドスケープの世界の扉を開いていただき、恵まれた学生時代を送りました。

実働の場に就いてからは、日本万国博覧会・千里ニュータウン・泉北ニュータウン・アジア太平洋博覧会（福岡）等のプロジェクトを通じて様々な人達に出会い、色々な世界の引き出しを開け、数々の世界を示してもらいました。法然上人は教えの中で『人は縁によって善人にも悪人にもなる。』と諭されていますが、人との出会い・人の縁は大切なものです。小生はその縁を活かし切れてはいませんが、人との出会いをもっと大切にして生活を豊かにしていきたいものです。

ニュータウンの開発時期に実務に携われた事は幸運で、千里ニュータウンの住宅地のプレイロットでは、『遊び場を創るというよりは景を創るのだ！』という思想を持とう。』と砂場と自然石だけのプレイロットを創ったり（30年を経て、豊かな緑の中に意図した静かな空間が維持されているのを見てホッとしました。）、泉北ニュータウンの児童公園では、段切りされた大造成地の住宅街に『失われた大地の造形を復元しよう！』と切盛で丘を創ったりと、あの当時は貧しいながらもランドスケープの限り無い可能性を確信出来た時代でした。社会状況がどんどん変化し、千里ニュータウンでは街の構造事態が議論されていますが、基盤となる緑は着実に育ち、街に風格と潤いを与えています。

今の時代はランドスケープにとって厳しい状況になっています。しかし、大気汚染・水質汚濁・土壌汚染等の公害問題は、技術革新により解決しようとする限り、新しい問題が引き起こされるでしょう。

『緑に秘めたる力を見出すべし』を忘れずに、志を持って朴訥に樹を植え続ける人生でありたいと願っています。

瀬川 勝之 株式会社 緑景

H17年度街づくりコンペ 会長賞
岡山県 桃太郎大通り

